

世界の水準を超える新しい日本の施設園芸をめざす

## スーパーホルトプロジェクト Super Hort Project

高い生産所得と安くおいしい農産物を

### 1. スーパーホルトプロジェクトとは

わが国の施設園芸では、輸入農産物の増加、担い手の高齢化、大きく変動する天候の影響等の問題が年々深刻化しています。これらを克服するためには、生産から販売までを一つのシステムとしてとらえ、システム全体とそれを構成する施設、環境制御、品種、栽培技術等について、異業種を含むオールジャパンの取り組みによるイノベーションによって飛躍的な合理化・高度化を図る必要があります。

そこで、民間活力主導の下に産学官が連携して、明確な技術開発の方向と目標を共有し、画期的な技術革新を短期間に達成するための取り組みとして「スーパーホルトプロジェクト」を提案します。

本プロジェクトに関連するいろいろな技術開発は、各種研究補助事業や競争的資金などの予算獲得も視野に置いて推進していきます。

### 2. 技術開発の方向と目標

プロジェクトの最終目標は、施設園芸が他産業に負けない労働生産性と収益性を確保し、生産農家に高い所得をもたらし、消費者には安全で安くおいしい農産物を提供できるようにすることです。そのために、施設、被覆資材、環境制御機器・装置等のハードウェアから、品種、作物栽培管理、経営法などのソフトウェアに至るまで、生産システム全体について、総合的な技術革新に取り組みます。

具体的な数値目標として、5年後までに、ハードウェアの導入コストを現行の1/2に低減し、生産力を倍増する技術の開発を目指します（次頁の図を参照）。

そのために必要な個別技術の開発目標と基準を、各技術開発グループ毎に具体的に設定します。

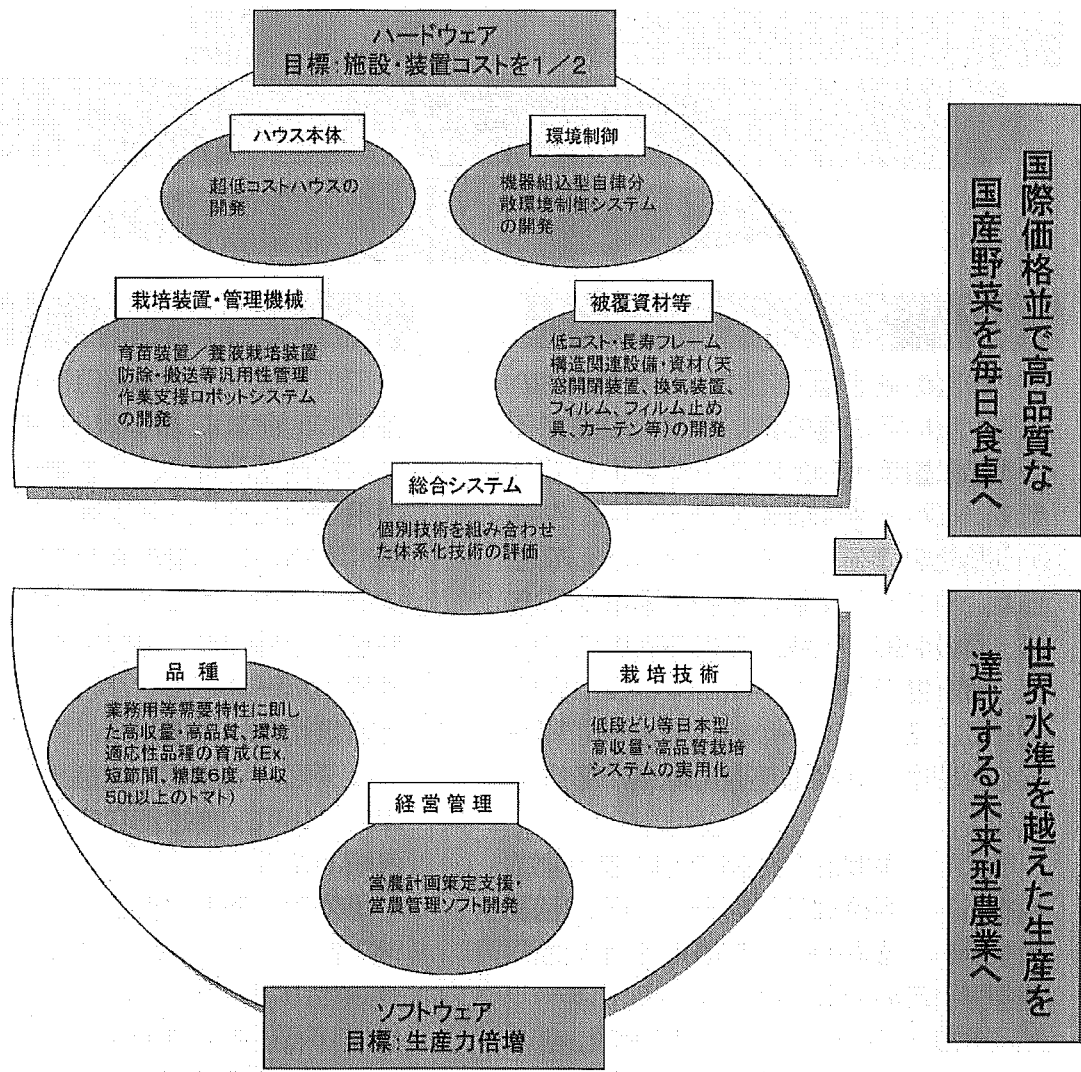
【具体的な技術開発目標の例：トマト高収量低段周年栽培】  
(概ね5年後に達成)

#### ○経営目標

夫婦2人と雇用労力による1haの経営で、農業所得1,800万円以上  
労働時間は2人で36,00時間、時間あたりの労働報酬は5,000円以上

#### ○技術開発目標

- ・ハードウェア・・・初期設置コスト 50%減
  - ハウス本体 500万円/10a
  - 環境制御システム 130万円/10a
- ・ソフトウェア・・・低段多回転栽培(3段摘心、年6作)技術の確立
  - 収量 50t/10a(糖度6度)
  - 高能率大量育苗システム



スーパーホルトプロジェクトにおける技術開発要素のイメージ  
(ソフトウェア部門はトマトの例)

### 3. スーパーホルトプロジェクト協議会

本プロジェクトを推進する組織として、趣旨に賛同する企業、試験研究機関、生産法人等から構成される協議会を設置します。協議会にはプロジェクト全体の基本的な推進方向を検討するために運営委員会（外部有識者を含む）を置くとともに、各分野別の活動の場として分野別部会を発足させます。分野別部会では、技術開発の方向や数値目標、技術基準等を設定するとともに、関連情報の交換を行います。各々の技術開発は、コンソーシアム方式や共通目標へ向かっての個別の取り組み等、柔軟に進めます。

※なお、協議会は平成18年8月25日発足、会費2万円(個人会員3千円)の予定です。

総合事務局：日本施設園芸協会  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17  
Tel: 03-3667-1631 FAX: 03-3667-1632  
担当 石内傳治 (ishiuchi@jgha.com)  
ハードウェア事務局：日本施設園芸協会  
ソフトウェア事務局：野菜茶業研究所  
担当 業務推進室 佐藤隆徳  
(Tel: 059-268-4622)

協力機関（予定）  
日本種苗協会  
日本園芸学会  
日本養液栽培研究会  
ユビキタス環境制御システム研究会

助言機関：農林水産省生産局野菜課